

教育研究所だより

令和6年度(2024年度)



9月号

(通算254号)

き どう

# 輝動

(きどう：子どもが輝き、躍動するまち)

近江八幡市教育研究所

TEL 0748-36-5574

FAX 32-3352

メール

044800@city.omihachiman.lg.jp



## 私の1冊

近江八幡市立老蘇小学校 校長 林崎 謙造

「漢字の間違いなどは、学習の、教育のごく一部分にすぎませんが、そのテストの結果、どういう漢字間違いが、だれに、どのようにあるのか、きちっと、とらえられていますと、小さな、ふとした折に、その子どもに、大変適切な指導のできる場合があります。ひとりひとりをとらえるということ、指導するということは、ほんとうに、地味な、ささやかな流れのようなものです。子どもが見えるということが、まずおもとであると思います。子どもが見えていないと、子ども中心といっても、実際にどうすることか、わからないこととなります。ここに教科書があるから、ここにこの文章があるから読むというのではなく、子どもの求めるものから、子どもから出発するというのも、子どもが見え、子どもがひとりひとりとらえられて、初めてできることなのです。ひとりひとりに目をむけていない教育というのは、教育のなかに入りません。教育というのは、ひとりひとりを育てることであって、グループを作ることも、クラスを編成することも、束にして指導することが目的なのではなく、グループのなか、クラスのなかで育つ、ひとりひとりがあるからです。グループのなか、クラスのなかでなければ育たないものがあるから、そうするのです。ひとりひとりを育てるということは、個人教授とは違います。たいへん違うのです。グループにしてこそ伸びる、ひとりひとりの力を養うことなのです。」

ご存じの方も多いと思いますが、国語教師、大村はまさんの言葉です。教師になりたてのころ国語科の研究大会で講演会があると、先輩から「いっという！」とよく勧められたものです。しばらくぶりに本を読み返す時間が持てました。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を進める今日、時代は違えど教育のなかで教師として大切にされてきたことが以前から変わらないことが読んで受け取れました。これこそが教育の不易ではないでしょうか。それに合わせて若いころは「授業で勝負できる先生を目指しや！」と先輩や管理職の先生方からよく叱咤激励を受けました。大村さんも、「教師は、やはり、学力をつける人、学力を養う技術を持った人です。いい人だけでは、職業として成り立ちません。」と厳しく述べられています。私もまだまだ職業人として成り立っていないなあと反省させられています。

それでも、大村さんは、「なんとなく惹かれるもののある教室を、力を合わせてつくりたいと思います。授業に魅力を、教室に魅力を…」と述べられています。魅力ある授業。魅力ある教室。わくわくしますね。私にとっては教師として大切にしたいことがたくさん見つけられる1冊です。機会があればみなさんもぜひお読みください。

参考文献「日本教師に伝えたいこと」大村はま 筑摩書房

# 夏期休業中の各種講座・研修

## ◆教育相談講座◆(全3回)

講座1:アンガーマネジメント ~大人が自分の「イライラ」をコントロールする方法~

講座2:不登校支援対策 ~データから見る市内の不登校の現状~

講座3:不登校支援対策 ~行動分析の視点~

7月23日(火)・8月1日(木)・6日(火)@桐原コミュニティセンター

講師:本市教育相談室 専門員

### 【参加者の感想】

○怒りのメカニズムを知り、他人が怒っている時や自分がイライラしている時に少し客観的に見られるようになったと思った。怒りのピークは6秒だと聞き、6秒を意識して「大丈夫 大丈夫」と余裕をもって対応をしていきたい。(講座1)

○データから中学生になると不登校になる数が増えることが分かり、小学校と中学校の校種の差を埋めることが求められると感じた。グループ討議の中で学校と家庭とのコミュニケーションが不登校を減らす手段であることが分かった。(講座2)

○教師の決めつけ、憶測だけではなく、不登校児の行動の裏にある気持ちに寄り添い支援を行っていくことが大事だとよく分かった。不登校児との会話で返事がないこともあるが、投げかけることは続けていこうと思った。(講座3)



## ◆保育・授業力アップ講座「ネタの種講座」◆

講座1:学習指導要領の趣旨を踏まえた中学校における外国語科の学習指導の改善・充実  
~小中のつながりを育む外国語科の授業づくり  
(校種間連携の強化)に向けて~

7月22日(月) 会場:学校給食センター

講座2:「自分らしく生きる」  
性の多様性への理解を深める学習

7月25日(木) 会場:武佐小学校



### 【参加者の感想】

○カード類を保存して中学校でも活用できるようにするなど、いろいろな工夫をしながら、校種間での学習内容を把握する必要性を感じた。

○小学校の先生方と共に単元の指導計画を立てるという経験は、互いを知り、育てたい生徒の姿を念頭に置いて授業づくりをするために、大変有益であった。

### 【参加者の感想】

○性の多様性をもとに人権、その他の教育についても深く考えた。他の学校との連携、中学校とのつながりをどうすればよいか考えさせられた。

○今回は「性」を切り口にして「自分らしく生きる」ことを学ぶ方法を教えていただいたが、全てにおいて大切な考えだと思った。中学校でも少しずつ広めていけるよう、がんばりたい。



◆保育・授業力アップ講座「ネタの種講座」◆

講座3:2025わた SHIGA 輝く障スポへ向けて  
ゴールボール・ボッチャ体験!  
～パラスポーツとしてユニバーサルスポーツとして～

講座4:広げよう!毛筆・書写の世界

7月26日(金) 会場:金田小学校

8月19日(月) 会場:八幡小学校



【参加者の感想】

○運動の得意不得意とはまた違ったものさしでスポーツを楽しむことができるんだ!と新たな気付きがもてた。

○正式競技の他にデモンストレーションスポーツや公開競技があることを知った。ボッチャを通して参加者の方々が笑顔になる姿を見て一緒にスポーツをする良さを改めて感じた。



近江八幡市オリジナルロゴマーク

【参加者の感想】

○書写はほめるポイントがたくさんあるということをおき、一人一人のよいところをたくさん見つけていきたいと思った。

○書き方や用具を少し変えると、多様な考えの表れや何より「やってみたい」という思いが出てくることを実感した。



こんな用具でチャレンジ!

・麻ひも ・わりばし ・つまようじ ・綿棒 ・段ボール



講座5:園外保育って楽しい!

講座6:しあわせを紡ぐ絵本の読みあい

8月20日(火) 会場:八幡幼稚園

8月21日(水) 会場:桐原小学校



【参加者の感想】

○園外保育の魅力について一つ一つ掘り下げていくことで魅力が増すことを改めて感じた。一歩外へ出て得るもの大きさを大切にしたいと感じた。

○教師自身が園外保育を楽しむことが子どもたちへの興味や関心につながっていくことが改めてよく分かった。園外保育の中でのねらいや意義をしっかりとつとめて、楽しさがより深まることも感じた。

【参加者の感想】

○絵本を通して作者の伝えたい意図を伝えるのではなく、読みあいをしている人と人の関わりから物語が完成していくのだと感じた。

○自分と目の前の子どもたちだからつくり出せる空間、生まれるリズムを大切に、私の声で語る事ができる時間を、その幸せをかみしめていきたいと思った。

・どんな悲しみの息をすっても、吐く息は感謝でありたい。



・本を読み合っている時、先生は本の住人。物語を生きる人。だから物語の世界から降りない。

・答えは育てていくもの。みんなで考えるとどんどん豊かになる=教室が育つ。

(村中先生のお言葉より)





講座7:P. A.を手法とした集団作り	講座8:授業の中で、タブレットを活用しよう～初級編～
8月22日(木) 会場:金田小学校	8月22日(木) 会場:金田小学校
<p>【参加者の感想】</p> <p>○コミュニケーションをとるのが苦手な人も自然とコミュニケーションをとれる P. A. を使って子ども同士をつなげていきたい。</p> <p>○初対面の方々と出会い、最初は緊張もあったが少しずつ打ち解けて楽しい時間になった。生徒もクラス替え等で同じ気持ちだと思うので、手助けをしたいと思った。</p> 	 <p>【参加者の感想】</p> <p>○普段オクリンクやドリルパークを使っているが、いつも同じパターンで使うのみで、他の機能にチャレンジすることがなかったので、今日いろいろな使い方を知れてよかった。</p> <p>○オクリンクをこれから少しずつ利用することで自分や子どもたちにとって有用なツールの1つとしていきたいと思う。</p>

### 第3回市初任者研修

日時 7月2日(火)

場所 学校給食センター

- 教育長講話
- 「学校事務と給与制度等」
- 「学校給食について」

「教育長講話」では、4月から困っていることについて話し合い、解決策を考えました。困っている時に「助けてほしい」と言える力をもつこと、そのためには日頃から様々な事に興味・関心をもち、多くの人と関わることが大切だと学びました。

「学校事務と給与制度等」では、給与明細の見方や学級会計の方法などを詳しく教えていただきました。教員が子どもと向き合う時間が確保できるように、事務職員の方々が教育環境を整備してくださっています。子どもも大人も笑顔で過ごせるように事務職員、教員が知恵を出し合い、力を合わせる事が大事であると感じました。

「学校給食について」では、給食センターに実際に帰ってくる給食の残食を見て、その多さに驚いたと共に、改めて「食」について考えました。食を大切にすること、そして、食べ物や生き物を育ててくださった人・給食を作ってくださった人など周りの人を大切にすることにつながります。毎月、19日は「食育(いく=19)の日」です。「食」を通して、自分や周りの人のことを子どもたちと共に考えていきたいですね。



### ～つながる読書～



みなさんは、学校司書さんに選書をどのようにお願いされていますか?例えば…「虫の本をお願いします」では、どのような虫の本が、何冊必要かわかりません。そこで、「ねらい」を明確して選書をお願いしてみてくださいでしょうか。

桐原小学校では、授業の「ねらい」を先生方が明確にされた後に学校司書さんと連携を取っておられます。「ねらい」が明確になると、集める図書の種類や数、どの場面で図書を活用するのかが、見えてきます。

この秋は「ねらい」を明確にして、子どもと学校司書さんをつながってみませんか?

長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、日常生活で使えるようになろう!

4年生 国語科  
「ことわざ・故事成語を使おう」

言いつたえられているお話を知り、したしもう

2年生 国語科  
「言いつたえられているお話をしよう」